

## 平成 16 年度「化学物質リスク削減技術に関する先導調査及び戦略調査報告会」

### 記

1. 日時：平成 17 年 5 月 27 日 (金) 15:00～17:30

2. 場所：(株)三菱総合研究所

東京都千代田区大手町 2 - 3 - 6 セミナー室(三菱総合研究所ビル 2F)

3. スケジュール：

15:00-16:15 「有害化学物質リスク削減技術におけるロードマップシナリオに関する先導調査研究」(委員長：東京工業大学名誉教授 秋鹿研一)

・本調査事業では、当該分野における 2010 年頃までの戦略ロードマップシナリオと技術戦略マップを作成する。具体的な調査作業は、(1)民生・運輸・産業分野における PRTR 削減対象物質に関する排出状況とプロセスの調査、(2)リスク削減に係る既存技術、先導・革新技術に関する最新動向調査、(3)インプラント対策技術(クリーンプロセス、クリーナープロダクション等)調査、(4)エンドオブパイプ対策技術(VOC 等の回収、無害化、リサイクル等)調査、(5)化学物質管理システムに関する最新動向調査(国内外の事例)、(6)取り組むべき戦略目標(導入・普及効果、波及ポテンシャル、経済性効果、コスト予測等)、(7)戦略ロードマップ、技術戦略マップ(2010 年頃まで)の作成 等々について概略を報告する。

コーディネーター：新原敏夫(NEDO 環境技術開発部 主査)

講演者：神鋼リサーチ(株) 上席主任研究員 福田光弘

(財)産業創造研究所 主席研究員 鈴木 悟

16:15-17:30 「マテリアルフロー解析を用いる革新的環境評価システムに関する戦略調査研究」(委員長：新潟産業大学学長 吉田邦夫)

・本調査事業では、ある製品に含まれる有害化学物質の原因となるマテリアルに着目し、ライフサイクルにおける製品のマクロなフロー解析を行ったのち、マテリアルにおけるミクロなフロー解析を行ない、リスクが発生するステージ、要因等を明らかにする。さらに、社会中に存在する製品群に含まれるマテリアルの全

量フローを推算し、全体リスク(削減可能量)の定量化を行う。これらの評価手法は、あらゆるマテリアルを含む製品群に拡張することができるため、社会中に存在するさまざまなマテリアルのフローを捉えることができ、それぞれの製品及びそれに含まれる化学物質のリスクを推定することができる。本調査研究では、ヒト健康等に懸念される観点から着目する代表的なマテリアルとして鉛(Pb)、揮発性有機化合物に含まれるマテリアルとして塩素(Cl)を取り上げる。

コーディネーター：河中裕文 (NEDO 環境技術開発部 主査)

講演者：(株)ダイヤリサーチマーテック 主幹研究員 竹下宗一

(株)三菱総合研究所 主席研究員 中條 寛

4. 主催：NEDO 技術開発機構 環境技術開発部

成果報告書のダウンロードは

<http://www.nedo.go.jp/database/index.html>

<http://www.nedo-chem.jp/>